



NOBORIBETSU

お年寄りと保育園児らが交流

川上公園で6月7日、富士保育所と桜木保育所の子供たち約70人が、老人クラブ梅光会のお年寄り約20人と交流会を開きました。

青空が広がって新緑の美しい芝生の上で、元気いっぱいダンスをしたりゲームを楽しんでいました。

お年寄りたちもかわいい園児たちのしぐさに顔をほころばせ楽しいひとときを過ごしていました。

広報
のぼりべつ

'91.7.1
No.489

■人口/56,538 ■世帯/19,861 (前月比=人口-103・世帯+7) 平成3年5月末現在

①

7月の土曜閉庁(休み)は13日と27日です

完成 トンボの庭園

スタラ〜ブル



トンボをシンボルにした庭園が、登別小学校開校100周年を記念し、同校玄関前に完成しました。

6月18日に行われた開園式には全校児童と父母ら約500人が参加し、テープカットの後全員が真新しい庭園に入園。吉田協賛会長、浜校長、後藤教育長

らが「このトンボのように強く風を切って育って欲しい」と祝福のあいさつをし、児童代表の川西梓さんが「立派な庭園をありがとう。強い風にも負けないトンボのように大きく羽ばたきます。」とお礼を述べました。最後に全員で「とんぼにのってあのそらへ」を歌

い、2世紀への飛躍を誓いました。

この庭園は広さ約500平方メートルで、中心部に体長約15センチ、両翼約10センチの大きなトンボをみかげ石でかたどり、周囲にはツツジを植え、中は一面芝生です。豊かな自然に囲まれた同小学校は秋になると赤とんぼが群舞します。庭園は、この風になげずに飛ぶとんぼをテーマに「トンボに負けないよう夢を持って羽ばたいて欲しい」と、児童へ願いを託して作られました。

同小では10月6日に開校100周年を祝う記念式典を予定しています。

元気一杯!! 恵寿園運動会

市立養護老人ホーム恵寿園で、6月7日に春の運動会が行われました。

運動会は毎年春、秋の2回実施されており、入園者の親ばくを深め健康を増進するのが目的です。

真青な空が広がったこの日、同園のゲートゴルフ場で行われた運動会。ほとんどの入園者が元気一杯に参加し、まずラジオ体操で体をほぐした後はバ



ン食い競走。大きく口を開いても揺れるパンに四苦八苦していました。

その後はボール運びや玉入れ、二人の職員を花嫁に変装させる仮装競争などに取り組み、童心に戻ったように歓声をあげていました。

参加者は初夏の陽気の中でさわやかな汗を流し、笑顔でいっぱいでした。

きれいに なったよ

自分達が遊ぶ公園は自分の手できれいにしようと5月22日、富士保育所の児童が隣接する富士1号公園の清掃をしました。

青空の下清掃に取り組んだのは、2

歳以上の児童73名と保母8名。

小さな手で雑草をむしったり、石やゴミを拾ったり、約1時間半の作業でした。

清掃終了後子供達は、すっかりきれいになった公園で歓声をあげながら走りまわっていました。



わだい

オープン

オアシス ルーム



6月19日、市内初の「オアシスルーム」が幌別西小学校にオープンしました。

オアシスルームは、児童数の減少に伴い増えつつある空き教室の有効利用のひとつとして、普通教室2室分の大きさを畳敷きの和室に改造し、床の間や床柱もある立派なもの。

この日行われた開室式には、各クラ

スの代表50名と関係者ら約40名が出席しました。横山校長が「学校と地域の壁を取り払い、互いに学ぶ場として有効に活用して」とあいさつ。これに対し児童会長の近藤拓郎さんが「どうもありがとうございます。学習・交流の場、お年寄りの皆さんとの生涯学習の場として大切に使っていきたい」とお礼を述べました。

この後、給食を囲んでのパーティとなり、集まったお年寄りたちと交流を深めオアシスルームとしての一步を踏み出しました。

今後同ルームは、地域の方と児童とのふれあいの場として活用されるほか、各学級活動や上級生と下級生の給食交流の場、生涯学習の場として開放されます。

気持ちよく 利用してね

5月28日、日赤奉仕団の皆さんが鉾山町の市民研修センターで、清掃奉仕活動を行いました。

午前9時すぎに、同奉仕団片倉分団の団員20名がかっぽうぎ姿で参加し、まず200組の布団をグラウンドに干し、



床ふきやガラスふきを行いました。

毎年清掃奉仕を行っているだけに手際よく作業をこなしていました。

キャンプシーズン本番を迎え、利用申し込みも7・8月はほぼ満ばいの研修センター。

清掃に参加したメンバーは、「多くの利用者に気持ちよく使ってもらえたらうれしいんですよ」と、話してくれました。

鉾山町の市民研修センターの利用を希望される方は、社会教育課（☎881100）へお申し込みください。



しっかり見て渡ります

若山町の道道と若山浄化センター前の市道が交わる交差点に信号機が設置され、5月31日、子供達が渡り初めを行いました。

この交差点は、青葉小、緑陽中、登別南高の通学路で、年年増える交通量に事故の発生が懸念され、地域住民からの要望を受けた市は室蘭署へ信号機

の設置を訴え続け、このたび念願の設置となりました。

式典には小、中、高校生や関係者が約80名参加し、青葉小2年の大洲美穂さんが「学校へ行くときも遊びに行くときも信号をしっかり見て横断します」とお礼の言葉を述べた後、真新しい横断歩道を元気に渡りました。

第一回市議会定例会

一般会計補正予算などを可決

平成三年第二回市議会定例会は、六月十二日から二十日まで開かれ、平成三年度一般会計補正予算など議案九件、報告一件が上程されました。

以下、今議会で審議された議案の主な内容についてお知らせします。

格が地方自治法の改正に伴い「知識経験を有する者」から「識見を有する者」に改められたことなどにより改正するものです。

▽土地の取得について

平成元年度より建設中の登別ビーチパーク新設事業の用地は、登別市土地開発公社が先行取得し事業を進めてきましたが、本年度、市が同公社より買い入れるため議会の議決を求め取得するものです。

▽固定資産評価審査委員会の選任について

本年七月四日をもって任期満了となる吉田精一さんの後任に、小紫泰次さんが選任されました。

▽公平委員会委員の選任について

登別市公平委員会委員三條幸男さんが六月三十日をもって辞任されることとなり、後任として亀谷健二さんが選任されました。

なお、各議案については、いずれも議決となっております。

一般会計補正予算の主な内容

平成三年度一般会計補正予算は、一億一千八百八十三万二千円を追加するもので、歳入歳出予算総額は、それぞれ百五十七億九千二百八十三万二千円となりました。補正予算の主な内容は、次のとおりです。

◎清掃一般事務に要する経費（百万円）

生ごみ堆肥化容器の購入補助事業（追加分）等に要する経費

◎米消費拡大総合対策事業経費（五十一万円）

道産米を使って料理の試食会などを催し、道産米の販売促進をするための経費

◎公営住宅再生マスタープラン策定経費（一千三十万円）

老朽化した公営住宅の整備や老人・障害者、若年単身者向けの住宅建設などの多様なニーズに対応する住宅建設計画を策定するための経費

市民の力で手づくり祭り…

市は、市内から一切の暴力を開放し平和で安心して生活ができるよう市民挙げての暴力追放運動を展開しています。

七月に入ると登別市内も本格的な「お祭り」の季節を迎えます。市内各地でお祭りが行われ露店が子供をはじめ多くの市民の夢をさそいます。

しかし、中には暴力団とつながりを持ち、暴力団の有力な資金源となっている露店もあります。

市は、一昨年から安全で住みよい街づくりのため暴力追放運動の一環として関係機関と連携を図り、お祭りから暴力団とつながりのある露店を排除し、市民みんなの手で創意と工夫にあふれた「手づくり祭り」を行いました。

（みんなの手で手づくり祭りを）市民みんなの創意と工夫で安全で楽しい「手づくり祭り」を市民のためのふれあいの場とすることが大切です。

市としても、各地区における「お祭り」の実施についての情報やアイデアの提供・出店方法・各種許可など積極的に協力し応援させていただきますと考えています。ぜひご連絡ください。

▽連絡先 市民課（☎851-855）

▽登別市防災会議条例の一部改正について

この条例は、防災会議の組織の充実を図るため、防災会議委員として新たに消防団長を加えるとともに、総委員定数を二十五人以上とするものです。

また、災害対策基本法で定める用語の統一と条文の整備を行うもの

です。

▽登別市沿岸漁業構造改善対策推進協議会設置条例等の一部改正について

審議会、協議会等の附属機関の構成員から議会の議員を除こうと

するものです。

これは、議会の議員が、本来の活動である議決に参加する前に意見形成の場に参加することは好ましくないとの考え方によるものです。

対象となるのは登別市沿岸漁業構造改善対策推進協議会のほかに、学校給食センター運営委員会、公害対策審議会、中小企業振興審議会、雇用対策審議会の四つの機関があります。

▽登別市監査委員に関する条例の一部改正について

この条例は、監査委員の選任資

厚生大臣表彰

志賀京子さん

(富浦町在住)

昭和四十七年十月から現在に至るまでの十八年十か月にわたり、R富浦駅の清掃奉仕活動を続け、地域生活環境づくりに貢献されました。

生ごみ堆肥化容器

購入費の一部を補助します

市は、家庭生活ごみの自家処理を促進して、ごみの減量化と生ごみの有効利用を図るため、「生ごみ堆肥化容器」を購入された方に、購入費の一部を補助する旨、広報等を通してお知らせしたところ、ご希望の方が多数のため、一部の市民の方にご迷惑をおかけしました。市民の方のごみ問題に対する関心の高さを受け、市は今議会において補正予算を組み議決を得ましたので、再度購入費の一部を補助することとしました。

なお、今年五月に、既に補助を受けた方は除きます。

▽対象者 ●家庭から出る生ごみを自家処理しようとする方で、市内に居住している方 ●容器を適正に維持、管理できる方

▽対象容器 ●容量が百リットル以上のもの

▽補助額 ●購入する容器一個当たりの



り二千円

▽補助個数 ●百五十個（一世帯一個）

▽申し込み ●七月十五日から（百五十名で締め切ります）

▽申し込み方法 ●環境衛生課（幸町清掃工場内）、市役所市民課、各支所に申し込み用紙がありま

すので印鑑（朱肉を使うもの）を持参のうえお申し込みください
▽問い合わせ ●環境衛生課（☎2958）

第2回

鬼サミット登別

(第28回地獄まつり)

湯煙がたち昇る全国屈指の温泉郷、のぼりべつ。年間四百万人の観光客が訪れるこの登別温泉で、八月二十三日から二十五日までの三日間、「鬼サミット登別」が開かれます。この催しは、登別温泉のシンボル「鬼」をテーマに全国各地に伝わる鬼伝説や鬼芸能などを集め、

これらの催しを通して交流を深めながら鬼とは何かを考え、合わせて新たな観光振興、まちづくりの気運の盛り上げを図ることをねらいとしています。

昨年の第一回鬼サミット登別は、市制施行二十周年記念事業の一環として行われましたが、今年度も継続して行い更に多くの市民の参加を得るため地獄まつり期間中、多彩なイベントを企画しています。

「鬼サミット登別」

遊び編チーム募集

鬼サミット登別実行委員会は、鬼にちなんだゲームに参加するチームを次の通り募集しています。

◎地獄登り鬼の金棒引き大会
▽日時 予選・決勝：八月二十四日（土）午後一時から午後二時三十分

▽場所 登別温泉極楽通り
▽内容 百リットルの上り坂を三リットルの全棒を引いて走るタイムトライアルレース 一チーム八名

▽応募締め切り 七月三十一日
(水)

◎アイデア・オニグッズコンテスト

▽応募資格 どなたでもかまいません
▽応募作品 オニにちなんだ作品であればなんでもかまいません

▽応募締め切り 七月三十一日
(水)

▽発表 八月二十三日（金）入賞作品は温泉極楽通り物産展会場に掲示

▽送付先 鬼サミット登別実行委員会事務局（〒0591-05登別市登別温泉町六十番地 登別観光会館二階）

※申し込み・問い合わせはいずれも同実行委員会事務局（☎842924）まで

第九回

のぼりべつ提灯まつり

のぼりべつ提灯まつり実行委員会は、「鬼サミット登別」協賛衣装コンクールの参加者を募集しています。

多数のご応募をお待ちしています。

▽日時 七月十九日（金）午後七時

▽場所 鬼おどり会場（富士橋通）
▽参加資格 ●登別市内在住又は勤務されている方 ●団体、個人は問いません ●入賞者は八月二十四（土）鬼サミット登別の登別温泉会場に出演できる方

▽仮装のテーマ 鬼に関するもの

▽応募締め切り 七月十日（水）

▽申し込み・問い合わせ のぼりべつ提灯まつり実行委員会（登別市中央町五一六一一登別商工会議所内）担当：関さん又は田村さん（☎854111）

村さん（☎854111）

市民リポート

未来を担う子どもたちのために

リポーター 大屋 二三枝

登別市民となって早や八年。子供は小学校一年生、すっかり登別市民が板に付いた私が最近関心をもっているのは、子どもを取り巻く地域とその環境です。

そこで利用したことのない児童館に目を向けてみました。「子ども

の正しい遊び場や校外活動の場」と市民便利帳にも載っているのですが、児童館を知らない方もいる

と思います。児童館は市内八か所、登録制で対象は幼稚園児（父母同伴）、小学生です。開館時間は午前九時から午後五時まで、それぞれの児童館に児童厚生員の資格をもった先生が勤務しています。

それでは、児童館でいったいどんな活動をしているのかと思ふ富土児童館を訪れてみました。私が訪れた午後二時は、子どもたちが来る前のひっそりした時間でした。玄関に入ると各種行事の案内や子どもたちのぬり絵やカード入れが目に入ります。全体の印象としては、こぢんまりした家庭的な幼稚園か小学校といったところ。登録しているのは約百名、でも顔を見せるのは一日に十五から三十名程だそうです。

活動内容としての大きなものは、少年宿泊研修、スポーツ交流会、遠足、クリスマス会、それにおおげ屋敷がメインとなる児童館まつりなどがあります。日常的な活動は、クラブとしてスポーツ、影絵、

工作など子どもたちのやりたいことが中心となっています。普段の遊びで人気があるのは卓球とビーチボールを使つてのドッチボール。（運動場の窓にはガラスが割れないための防護さくがないのでやむなくビーチボールを使うとのこと）

児童館について初めて話を聞いた私は、随分色々なことをしているんだなと思うと同時にそれを子どもや親たちにもっと知ってもらうべきだと感じました。現在のアピール手段としては学校へ配布している児童館だより、また、町内会や子ども会にも参加を呼びかけるのは児童館まつりだけだそうです。知らない人が多いのも無理のないことかも知れませんが。

〈児童館へ来る子どもたち〉

富士児童館へ来る子どもたちは主に幌別西小学校区の小学生とその近郊の中学生です。小学四・五年生が最も多く、中学生の登録は二十名程とのこと。この子ど

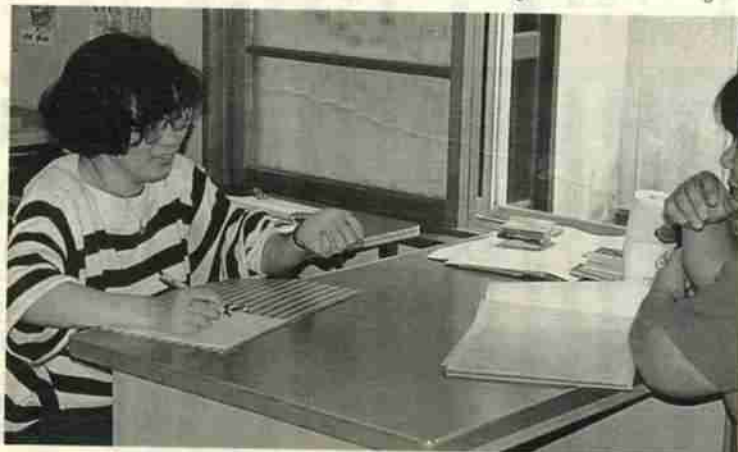
もたちが児童館に来る目的は何か、杉村みどり先生に聞いてみました。「行事に合わせて来る子どももいれば、通いつめたりバツタリと来なくなったりといういろいろですが、おおくの子どもはこれをしたいたから来たということはないんです。

先生何かやろう、といった具合なんです」というわけで、特にしたいことがあつて来るのでもなさそう。最近の忙しい子ども事情が反映されてか習い事へ行く前の空き時間に来る子もいます。先生のお話で気になったのは、年長の子どもが年少の子を思いやる気持ちが足りないのではないかとということです。これは、子ども社会に限ったことではないはず。限ったことではないはず。限ったことではないはず。限ったことではないはず。

〈家庭と学校の中間点〉

この児童館に勤務している先生は杉村先生ただ一人。活動の計画から実施までを一人で切り回す頼もしい先生です。「学校ではできないことを子どもたちに味わわせてあげたい。そうおっしゃっています。児童館で子どもが何気無く話す学校のこと、家庭のこ

となど決して学校の先生や親には言わないだろう子どもの本音が聞こえるのもここならではのことも。児童館とは学校と家庭の中間地点、そんな感じを受けて帰りました。早速私も、友人の親子を引き連れて出直してみよう。もしかしたら子どもにとつて「楽しいところ」がひとつ増えるかもしれないでしょう。



リポーター 大屋 二三枝さん (新川町在住)

未来を担う子供たちへ、すこやかに育つてと優しい思いを寄せる元氣な奥様です。

「観光客を温かくもてなすホスピタリティ運動を市民ぐるみで推進しよう」を合い言葉に昨年度結成された「登別市観光ホスピタリティ推進協議会」。

この会の観光ボランティアガイドは、一般市民から希望者を募り観光客のガイドをしてもらうもので、道内では小樽市、函館市、室蘭市などでも行われています。登別では、今年度二期生の方が昨年の十月から研修を受けていました。本格的な観光シーズンに入り、六月八日から実際の活動が始まりました。どのような仕事なのか興味があり、一日体験させてもらいました。

ガイドをするのは主に地獄谷とその周辺です。胸にオニの絵の入ったワッペン、腕に観光ボランティアガイドの腕章を巻きスタイルだけは一人前。最初は地獄谷展望台の入り口にある美化センターで

先輩のガイドさんから説明を受け

ました。ガイド用のテキストもありますがそれを暗記するだけでなく、時代背景や温泉にちなんだ和歌の話、この地域に群生している植物のことなどが観光客の気持ちをひきつけるのに役立つとか。ガイドさんの仕事は多方面にわたる知識が必要であることを痛感しました。あちこちの説明を受けてから「さて、実際にガイドをしてみますか」と言われてはたと困りました。史跡についての年号や名前がすっかり混乱してしまい、とて

も人前では説明できそうにありません。でも、何もしないで帰る訳にもいきません。一か所だけ説明するのならば何とかできそうだったので、テキストをしっかりと抱えこんで地獄谷展望台に立ち観光客を迎えます。最初に来たのは三人連れのグループ。「あー、観光ボランティアガイドですが」と近づくと、「いや、結構です」と話をする間もなく行ってしまいました。他のガイドの人たちも話すきっかけがむずかしいとおっしゃっていました。これは観光客が「この人は誰だろう」とか「ガイドをしてもらうと料金を請求されるのでは」といった警戒心があるからだと思えます。この点について先輩のガイドさんに聞くと、現在ガイド用ユニフォームの製作や無料であることをアピールする看板等を用意する予定とのことでした。

さて、気を取り直して待っている観光バスが到着して大勢の人が降りてきました。その中の何人かに声をかけましたが、バスの出発まで十分間程しか時間がないと

のことでまたしても断られました。「すぐ奥に間欠泉がありますからそこだけでもご覧になっては」とすすめましたが、地獄谷をバックに写真を撮っただけで全員バスに戻ってしまいました。せっかくなので来て記念写真だけでもこも見ないで帰るなんて、と残念に思いました。

その後、二十年ぶりで旭川から来たというご夫婦に声をかけたところ理解をしてくれてやっとガイドとしての初仕事です。テキストを片手に、地獄谷は笠山の爆裂火口跡で長径四百五十メートル、面積約十ヘクタールあります。登別温泉は十一種類の泉質と豊富な湯量を誇っています。また、地獄谷遊歩道は市が登別温泉地域総合整備事業として建設したものです等々。たまただ

しいガイドでしたがご夫婦は熱心に聞いてくださいました。このボランティアガイドについても説明をすると、とても良いことですねと感心され、これからはがんばってくださいと激励してくれました。とてもうれしくガイドとしての充実感がありました。

登別市のボランティアガイドは、ガイドの研修を受けても事情があつて参加できない方もいるため、人員が不足しています。そのためローテーションの組み方もきつくなり、ボランティアの方の負担も大きくなりがちとか。先輩のガイドの方は「市民一人ひとりが、一年に一回ずつガイドを引き受けてくれる、これがボランティアガイドの理想です」という言葉が印象に残りました。私も今回参加して、初めて知った史跡もあり、とても勉強になりました。そして登別の良い所を少しでも多くの人に紹介したい、そう強く感じました。

ガイドの仕事は、あくまでもボランティアでやるべきだと思います。



ランティアなので生活のベースに合わせて参加できるとのこと。今年の秋には、市民の皆さんでやってみたいと考えている方がいらつしやいましたら第三期生に応募してみませんか。きつと新しい「のぼりべつ」と「自分」を見つけていけると思います。

やってみました

観光ボランティアガイド

リポーター
塚野道代

市民体験隊

リポーター
塚野道代さん
(中央町在住)

登別市民となって日が浅く、登別のことをもっと知りたいとおっしゃるお祭りが大好きな奥様です。



市内を縦断



登別は第5ステージ(10月5日)

登別は孤独と戦う第5ステージ

標高800m、クッタラ湖、太平洋がダイナミックに遠望できるオロフレ峠越えの苛酷なステージ。

レースも終盤戦に入り、1秒を争う緊迫感が漂います。このステージは、チームタイムトライアルとは打ってかわり、選手個人の孤独な戦いとなります。

沿道を埋める市民の声援が選手を支えます。市民の皆さんの大きなご声援をお願いします。



▽レース日時
十月五日(土)
室蘭市(輪西町)からスタートして市内を通過し、オロフレ峠を経由して札幌に至る百六十キロがステージとなります。

▽二十四チーム百二十名が参加
大学十チーム、社会人九チーム、地域選抜三チーム、外国(韓国)

わが国で初めての本格的なステージ(区間)レースとして四年前道央圏で第一回大会が開催されたツール・ド・北海道。以後、毎年道内各地を舞台に、さまざまなドラマが繰り広げられています。その熱戦の様子はテレビ等の報道を通じてご存知の方も多いと思いますが、その感動を身近にナマで体験できる絶好の機会が訪れました。沿道を埋めつくし、通過選手に盛んな声援を送りましょう。

▽競技
個人と団体のタイムレース等があり、中でも団体は各チーム五名中上位三選手の合計タイムで競われるため、チームワークと風対策、かけひき等作戦が重要な要素となります。

全体で六ステージ六百八十五キロからなり、当市の通過は第五ステージで終盤戦にあたり、各チーム、個人の争いもクライマックスに達する時期です。

本市内の通過時間・コース等の詳細は本紙9月1日号でお知らせします。

・アイランド)二チームの合計二十四チームからなり、一チーム五名編成で百二十名がエントリー。平坦地では時速四十キロを超えるスピード感あふれる戦いとなります。

市民の手でまちを花いっぱい

市民憲章推進協議会 7月~10月下旬

登別市民憲章推進協議会と市は、今年も花いっぱい運動を実施します。

この運動は、市民憲章の一節「緑と空と太陽のいっぱいあるきれいなまちをつくりましょう」の精神を具体化するため例年実施しているものです。皆さんも身近なところに花を植え、美しいまちづくりに参加してみませんか。

今回の花いっぱい運動は、七月上旬から十月下旬までを実施期間としています。老人クラブ、登婦連、連合町内会など市民憲章推進協議会参加の各団体は、七月三日市民会館を皮切りに市役所庁舎、支所、公民館などにフラワーポットを設置する運動を展開します。また、市内の小中学校に花の苗を贈るなど全体的な運動の広がりを目指しています。

この花いっぱい運動は、既に一部の町内会やグリーンパトロール隊でも取り組んでおり、地区によっては街路樹の下に花を植えたり、メインストリートにフラワーポットを設置したり、道行く市民の目を楽しませています。

この期間、市民一人ひとりの力でまちを美しく飾りましょう。



大雨災害に備えて 登別市防災総合訓練が 実施されます

▷日時 7月10日(水)午前9時45分～正午

▷場所 登別市登別東町4-50 (広場)

(下図参照)

この訓練は、台風X号から変わった低気圧の接近により、胆振中部に大雨洪水警報が発令され、七月十日の午前八時から午前九時までの一時間の雨量が登別で三十五ミリ、カルルスでは四十三ミリを記録し、この雨により市内の一部地域に災害が発生したとの想定により行われます。

訓練には登別市を含め十八の関係機関が参加し、本番さながらに行われます。訓練内容は、気象情報伝達訓練、避難誘導訓練を始め、ガス施設や水道施設の復旧訓練、避難した住民への炊出し訓練、給水訓練などが行われます。

集中豪雨に要注意

登別市は地形上の特徴もあって局地的に、短時間に強い雨が降る



予測が極めて困難な自然が相手だからといって何もしないわけにはいきません。雨に対して的確な判断を行うことにより、いち早く避難行動を起こし人的被害

を最少限に抑えることは、わたし自身生命に対する責任行動です。雨が降ってきたら何に注意し、どのような行動をとるべきか。防災について真剣に考えてみましょう。

第四十一回 社会を明るくする運動

青少年の非行防止と更生の援助を目的とした「社会を明るくする運動」が七月一日から三十一日までの一か月間、全国一斉に行われます。

最近の少年非行は、殺人・強盗等の凶悪事件が跡を断たないばかりか、窃盗事犯や少年の心身をむしばむ薬物濫用事犯が多発しています。

こうした状況に対処するためには、青少年の道徳意識を育成するとともに、非行の原因となる事態の改善や非行に陥った少年の更生のために幅広い地域活動を展開する必要があります。そのため市が中心となり、警察・学校関係・PTA・社会福祉団体・社会教育団体等の協力のもとに、第四十一回社会を明るくする運動登別地区実施委員会を設置し、啓もうパレードや児童生徒及び婦人を対象とした映画会、地区懇談会を計画しています。

青少年の健全育成と明るく住み良い社会をつくるため、市民一人ひとりのご協力とご参加をお願いします。

◎第四十一回社会を明るくする運動啓もう並びに交通安全啓発パ

リード

▽日時 七月十一日(木)午後一時三十分より

▽コース 幌別小学校グラウンド→市民会館

▽その他 パレード終了後、市民会館大ホールで北海道警察音楽隊、幌別中学校ブラスバンドによる合同演奏会を行います(午後三時三十分より)。また、パレードが雨天により中止の場合(午後二時より)

▽問い合わせ 社会を明るくする運動登別地区実施委員会(市役所社会課内 ☎51911)



こんなところ あんなところ

私の好きな場所 其の十三…錦の滝

カルルス・サン・スポーツランド手前五百メートルを左に折れ、旧工事用道路を十五分程下ると溪谷に出る。上流に向けて五分程歩くと、高さ八分程の滝「錦の滝」に出会える。白糸を垂らしたようなこの滝は



登別温泉の奥座敷カルルス温泉に「錦の滝」がある。

秋になると、深まる紅葉との景観がすばらしい。暑い日の散策には飲料水の携行をお勧めするが、くれぐれも空カシ等は置いてこないように。

市民登場 友達の輪

村井フサ子さん
(64歳) 鷺別町在住



昭和五十六年から鷺別婦人会の会長を務めています。先輩方から聞いたところによると昭和三十二年発足のようです。現在は九十人程の会員がいますが、皆さんお若いばかりでなごやかに、そして協力的になつて頭張っています。信頼関係が大切ですね。主にボランティアをと思ひやっています。信頼関係が大切ですね。主にはボランティアをと思ひやっています。信頼関係が大切ですね。主にはボランティアをと思ひやっています。信頼関係が大切ですね。

理解と協力がなかったら続けられませんか。今、つくづく思うことはこれから先の老後をどう過ごすか、という事です。人生八十年と言いますからまだまだ十年、二十年先の事であります。家の中にいてもできる趣味をと思ひ十年前程前から俳句をやっているんですよ。あまり上手ではありませんけど。これからは初心に戻って、新たな気持ちで日々を過ごしたい、そんな気持ちを込めて一句詠んでみました。

「万歩計ゼロにもどして青き踏む」(リポーター感・人の為ではなく自分の為なんですよとおっしゃった顔が素敵でした。岡崎恵美子) 次回は、村井さんご紹介の登別東町在住・加納虎男さんです。

消費者コーナー

「マルチ商法」息吹き返す
苦情や相談急増

「購入者を紹介すれば、手数料がもらえる」などとピラミッド型の販売顧客組織に誘い、商品やサービスを売りつけるマルチ商法やマルチまがい商法に対する苦情や相談が急増しています。十五年ほど前から何度か社会問題化している手口ですが、法の網をたくみにくぐり抜けて息を吹き返した格好です。多額の借金を抱え込んだり、強引な勧誘で人間関係をこわす若者や主婦があとをたちませぬ。

マルチ商法やマルチまがいの話があつたら気をつけましょう。▽連絡先 登別消費者協会(☎058307)毎週火曜日・木曜日に受け付けます。

ご存知ですか こんなマーク
みんなの力でオゾン層を守る



世界中の多くの国々は、西暦二千年を目標にオゾン層を破壊するフロンガスを大気中に出さないようにしようと努力している。

私たち一人ひとりも毎日の生活の中でオゾン層を守るためにいろいろなことができます。たとえば、普段使っているスプレー類でもフロンガスを使っていない商品を使うことによりオゾン層を守ることができます。今、オゾン層を守るために「エコマーク」の付いた商品が売られています。「エコマーク」の付いた商品を使い、地球を守りましょう。

扇風機を使う季節です
使用前には必ず点検を

本格的な夏を迎え、扇風機が活躍する季節となりました。毎年この時期になると多くの家庭で扇風機を使いますが、発煙・発火の事故が発生し、被害が出ています。特に、羽根の回転異常、モーター部の加熱、ニオイ、音の異常が多く起こっています。使用前には必ず点検をしましょう。

- プラグが抜けていないか
 - タイマーツマミが「切」になっているか
 - ガードが変形していないか
 - ガードや羽根の取り付けがゆるんでいないか
- ※異常があつた場合は、販売店等にご相談ください。

生涯学習コーナー

夏期公民館講座開催

お気軽に学んでみませんか！

講座名	日時	場所	定員	材料費	持参する物	講師	申込開始日	備考
初心者 水墨画 教室 (静物・風景 画を描きま す)	7/18・20 24・25・27 (計5回) 午前10時～ 正午	市民会館	30名	200円 (5回分)	書道用具 一式 (筆大・小) 小皿 (内側白色)	小野 暁 雲 さん (市内 鷺別町)	7月5日～ 市教委社会 教育課 ☎88-1100	
初心者 実用習字 教室 (ボールペン 小筆を使った 習字)	7/11・18 25・8/1 ・8(計5回) 午前6時30 分～午後8 時	婦人 センター	20名	なし	ボールペン 小筆 便せ 新聞紙 3枚	本間 文 雄 さん (市内登 別東町)	7月5日～ 市教委社会 教育課 ☎88-1100	
ヘルシー 家庭料理 教室 (毎週必要な 食材を使っての 家庭の味が 中心)	7/17・20・ 24 (計3回) 午前10時～ 12時	鷺別公民館	20名	1,500円 (3回分)	プロシ エス カーフ 筆記用具	管理栄養士 千野 明 子 さん (室蘭市 高砂町)	7月5日～ 鷺別公民館 ☎86-8823	

NHKスポーツアナウンサー

西田善夫さんの

講演会開催

ヘルスバイオニアタウン事業



市教育委員会は、スポーツ実況放送でおなじみのNHKチーフアナウンサーである西田善夫さんを迎えての講演会を次の日程で行います。

当日は、老人大学の学習の一環として行われますが一般の方も入場できます。多数ご来場ください。
▽日時 七月十七日(水) 午前十時三十分より

▽場所 市民会館

▽入場料 無料

▽テーマ スポーツ人間像「名勝負、名場面から何を学んだか」

▽問い合わせ 市教育委員会社会教育課(☎88-1100)

フランス刺しゅう

内職技術講習会開催

室蘭就業援助センターは、フランス刺しゅうで内職を希望する方

を対象に講習会を開きます。

▽日時 七月二十二・二十三日の二日間、午前十時より正午まで

▽場所 室蘭市勤労婦人センター(室蘭市栄町二一―二十)

▽受講料 無料

▽定員 二十名(定員になり次第締め切り)

▽申し込み・問い合わせ 七月十八日までに同婦人センター内就業相談室(☎244431)へ電話(月曜から木曜日の午前九時三十分から午後三時三十分までの間)でお申し込みください

鮭の来る川に……

みんなで鷺別川をきれいに

鷺別連合町内会は、鷺別川の清掃活動を行います。昨年に続き鷺別中学校、室蘭土木現業所の協力を得て行う予定です。多数の皆さんのご協力をお願いします。

▽日時 七月二十一日(日) 午前九時より(小雨決行)

▽問い合わせ 鷺別連合町内会長 高橋豊さん(☎667781)

野犬掃とう業務の

補助者募集

市は、野犬掃とう等の業務を補助する臨時職員を募集しています。

▽募集人員 一名

▽資格 健康に自信のある方(男女を問いません)

※詳細については環境衛生課(☎852958)までご連絡ください。

海から「のぼりべつ」を訪ねて
中学生の巡視船えとも体験乗船

登別市ふるさと広場実行委員会は、室蘭海上保安部の協力を得て海からふるさと「のぼりべつ」を訪ねてみる「ふるさと探訪」を次のとおり行います。

▽日程 七月二十六日(金)

▽集合場所及び時間(バスで送迎)

●温泉公民館：午前十一時三十分

●登別公民館：午前十二時四十五分

●市民会館：正午

●鷺別公民館：午後〇時十五分

▽対象 市内の中学生男女

▽定員 八十名(定員になり次第締め切り)

▽参加料 百円(傷害保険料)

※参加者は昼食を済ませて集合のこと。室蘭港を出港し登別沖を往復し、午後四時頃下船の予定

▽申し込み・問い合わせ 市教育委員会社会教育課(☎88-1100)で七月五日より申し込みを開始します。

労働福祉センター

休館のお知らせ

労働福祉センター(千歳町三丁目)は、改修工事のため次の期間休館となります。

ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いします。

▽休館期間 七月一日より九月十日(予定)まで

登別に「登別温泉唱歌」という珍しい歌が残っている。

現在、知る人は少ないが温泉のまる美屋の小林くにさん（七十五歳）に伺うと、子供の頃お母さんがよく唄っていたということである。

帝国鉄道室蘭線
上り下りの汽車の旅
アヨロランボツケ驛道を
潜りて早くも登別

北海一の温泉場（東洋一）
此處より降りて一里半
湯あみがてらに山道を
客待ち馬車へと乗替ぬ
駅より走せて十余丁
沙見坂より見渡せば

中略

越ゆる断崖絶壁を
横ぎり走る三四丁
左に深く鹿の澤
流れもけわし葉川
此處ら邊りは紅葉谷
七重の坂や赤岩も
歌は、明治三十三年（一九〇〇）
の鉄道唱歌によく合う。

歌詩をみると、客待ち馬車とあるが、滝本金蔵さんが客馬車・円太郎馬車（昔豆腐屋さんが使った角笛のようなものを吹き鳴らして走った）が通ったのは、今から百年前の明治二十四年（一八九一）、歌詩の沙見坂は明治三十四年に完成したので、その後の時代の歌ということになり、小林さんのお話と年代が合うようだ。

登別温泉唱歌については後日述べたいと思うが、歌詩の中で「左に深く鹿の澤」と表現した文は、

現在の紅葉谷の道路でなく登別温泉中学校の方から下りる旧道から谷を臨み見た情景である。この沢が昔から「シカの路」であったことが語り伝えられ忠実に「シカの澤」として地名に残され歌詩に表現されなかったものと思われる。

この「鹿の澤」を実証するのが山田・知里先生の「幌別町のアイヌ語名」で、クスリエサンベツ川

郷土史点描

登別の開拓と動物たち

「シカとのかかわり」

登別郷土文化研究会 宮武紳



（地獄谷・大湯沼などから流出する温泉川）添いにシカの名のついた地名が二例残されている。

シカが何時も飛び越える場所の意味の「ユクテルケウシ」と、シカが何時もそこへ入ってのたうちまわる所の「ユクベサウシ」である。

ユクテルケウシは、前記紅葉谷から温泉の方に下った所で、現在の登別温泉町無番地、戸数四・五戸、温泉唱歌の「鹿の澤」のある地点。またユクベサウシは、新登

別大橋から下流をみると千歳川浄水場があり、カルルスから流れる千歳川（ベケレベツ・明るい川）と色の濃い温泉川の合流地点である。此処から温泉川を少し上ると右手の丘の上に低湿地帯があつて、春から夏にかけてシカが水を呑みに集まると昔から言われる所で、ユクベサウシの地名は湿地に足を

入れたシカが深みに嵌り、もがいている状態を言ったのであろう。道内にはユク（シカ）に関わる地名が多い。天人峽の勇駒別（ユコマンベツ・シカが山の方に行く川）、鹿越・鹿追（シカ狩りをする所）、久保内（クオナイ・鹿をとる弓を仕掛ける沢）、ユクトラシ（シカの登っていく所）などである。

約百三十五年前、虎杖浜（アヨロ）から夜道をきた島義勇は、クマ・シカの声

を聞きながら登別温泉に到着、温泉川の溪流と山静かな月夜の中で「シカの鳴声谷間四方に響き、面白き景色なり」と著書入北記に記録している。

筆者も富浦から中札内へ行く途中、見事な角をもった牡シカ四頭の群を見たのは五月末のこと、それにして登別にシカに関わる資料やアイヌ語地名が残っているのは特筆に値することである。

市税は便利な口座振替を

市税の納入は、窓口払いのほか口座振替制度があります。この制度は、納期を忘れたり納める手間がかかりませんので大変便利です。

手続きは、納入通知書、印鑑（銀行届印）、預金通帳を持参し口座のある銀行、郵便局、農協へお申し込みください。（一度手続きをしますと自動継続となります）

市税の納入についてのお問い合わせは税務課（☎85-1155）へご連絡ください。

全国友の会創立六十周年記念生活展

全国友の会は、よい社会はよい家からをモットーに、共に学び合い活動している団体です。

多様化する社会の中で、今、家庭はどうあつたらよいかを問いつつ、地域の皆さんからのアンケートもいただき展示会を開きます。

日時 七月十一日（木）から七月十三日（土）までの三日間午前十時より

場所 胆振婦人会館（室蘭市東町四一二十九）

会券 大人：四百円（当日四百五十円）、中高生：二百円（小学生無料）

内容 ● バランスのよい食事をめざして ● 幼児の生活リズム ● 資

源・環境など
▽連絡先 室蘭友の家（☎450605）又は広田さん（☎854708）

特別地方消費税法が改正されます

特別地方消費税は、皆さんがレストランで食事をした時旅館に宿泊したときなどに課税される道税です。

納める額は、飲食や宿泊料金の三割ですが、料金が一定額（免税点）以下のときは課税されません。この免税点が地方税法の改正により七月一日から次のとおり変わります。

○ レストランやスナックなどで飲食した場合は七千五百円（改正前五千円）

○ 旅館やホテルに宿泊した場合は一万五千円（改正前一万円）

※ いずれも一名あたりの金額です。▽問い合わせ 胆振支庁税務課（☎229131）

広報のほりべつよりおわびと訂正

広報のほりべつ「くらしのガイド」六月十五日号でお知らせしました「雲仙・普賢岳噴火災害」の義援金に関する記事中間い合わせ先電話番号は851911の誤りでした。おわびして訂正いたします。